

東部地域

沼津市

御殿場市

長泉町

三島市

裾野市

小山町

富士宮市

函南町

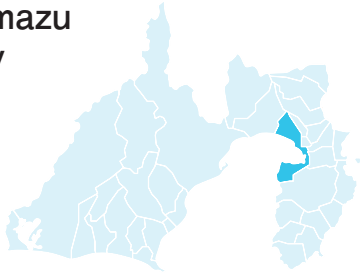
富士市

清水町



沼津市

Numazu City

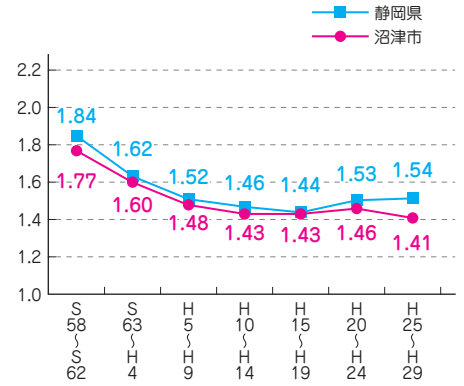


合計特殊出生率 [H25~H29]

1.41

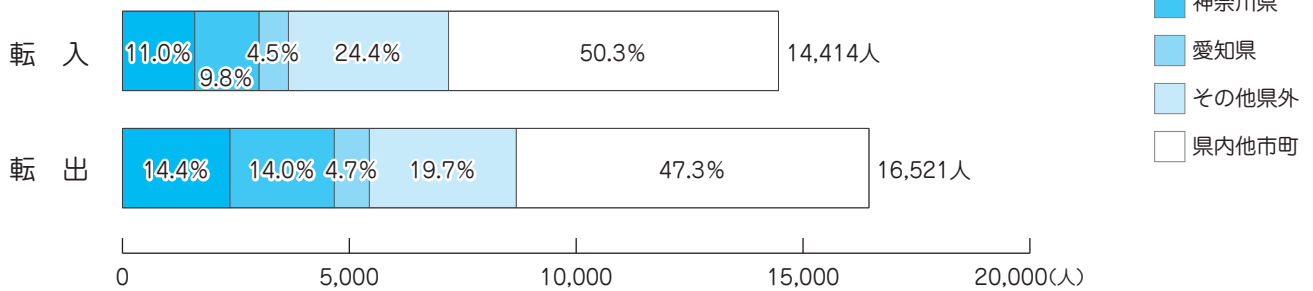
- 人口 194,869人
- 世帯数 92,306世帯
- 総面積 186.96km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

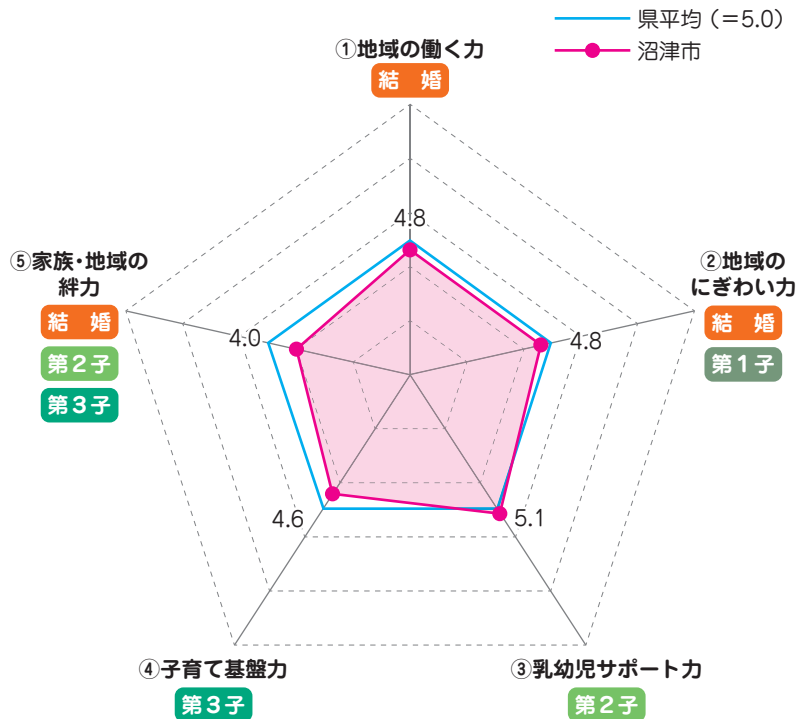


2 合計特殊出生率の要因分解

- 結婚要因
- 出生力要因
- 第1子
- 第2子
- 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」「⑤家族・地域の絆力」いずれも県平均を下回ったため、▲0.08になったと考えられる。

第1子要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を下回ったものの、今回分析対象とした指標以外の「独自の地域特性」の影響により、0.00になったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

SNS等を活用した子育て家庭目線での情報発信

《目的》

核家族化や地域の繋がりの希薄化などにより、子育ての知識・経験が次の世代に伝わりにくくなっていることから、子育て家庭が必要な情報を簡単に入手できる情報コンテンツを拡充し、支援施策の充実と情報発信の強化を図る。併せて、民間団体と連携し、民間レベルでの相互協力体制を強化する。

《概要》

Webサイトやスマートフォンを活用して支援施策を発信するほか、パパ・ママサークルの活動内容を発信し、パパ・ママ同士の繋がりを支援する。

●実施内容

子育てポータルサイト「Proud NUMAZU kosodate」

子育てモバイルサイト「ぬまづ子育て応援団」

民間子育てサークルによるイベントの支援



沼津市 子育てポータルサイト

<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/kyoiku/kosodate/>



5 わがまちのアピールポイント

●「マミーズほっとステーションぬまづ」における要支援産婦への支援の充実

産婦健康診査等により把握された要支援産婦に対し、訪問型育児支援の初回利用者負担金の無料化等を実施し、必要な支援を利用しやすい環境づくりを推進。

●ワーク・ライフ・バランス実現に取り組む男女共同参画推進事業所の認定

仕事と家庭の両立に配慮しながら、男女ともに働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいる市内の事業所を「男女共同参画推進事業所」として認定し、その取組を広く紹介。

●小中学校における特色ある「言語・英語」教育の推進

全小中学校において、「読解」と「英語」に関する独自の授業時間を設け、人との関わりを大切にしながら、子どもたちの論理的思考や課題解決能力の向上、英語を用いたコミュニケーション能力やグローバルマインドを醸成。

6 首長からひとこと

安心して子どもを産み育てられるまち

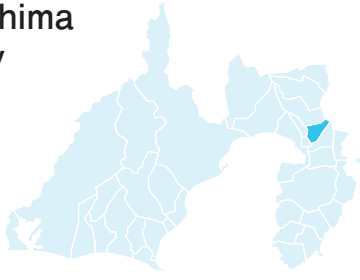


将来を担う子どもたちの元気な笑顔は、本市の未来をつくる力・希望であり一番の宝です。妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に取り組み、現在から将来にわたって、全ての子どもたちが前向きな気持ちで夢や希望を持つことのできる、暮らしやすく子育てしやすい環境づくりを推進してまいります。

沼津市長 頼重 秀一

三島市

Mishima City

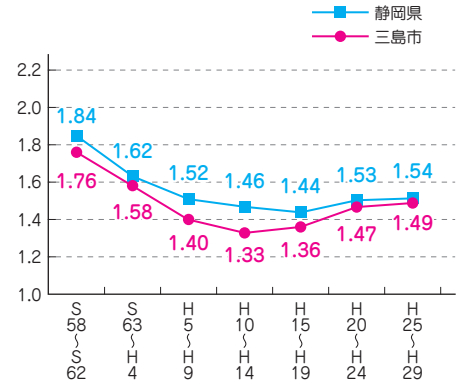


合計特殊出生率 【H25～H29】

1.49

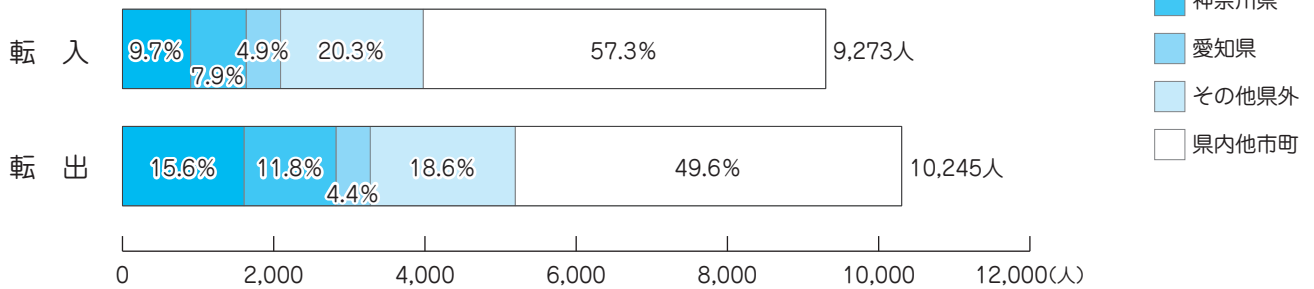
- 人口 109,445人
- 世帯数 49,250世帯
- 総面積 62.02km²

※令和2年1月1日現在



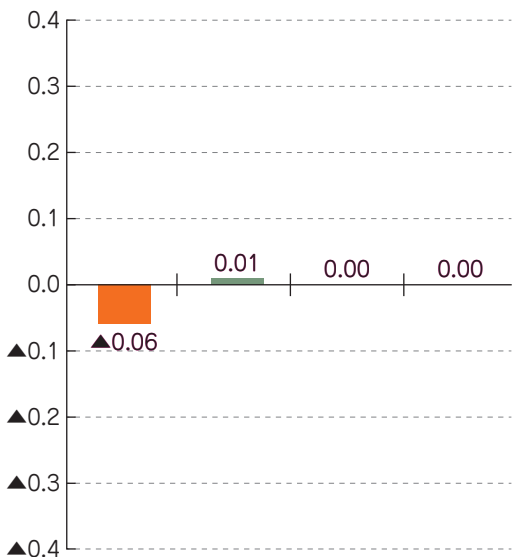
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20～34歳 【期間】H25～H29年

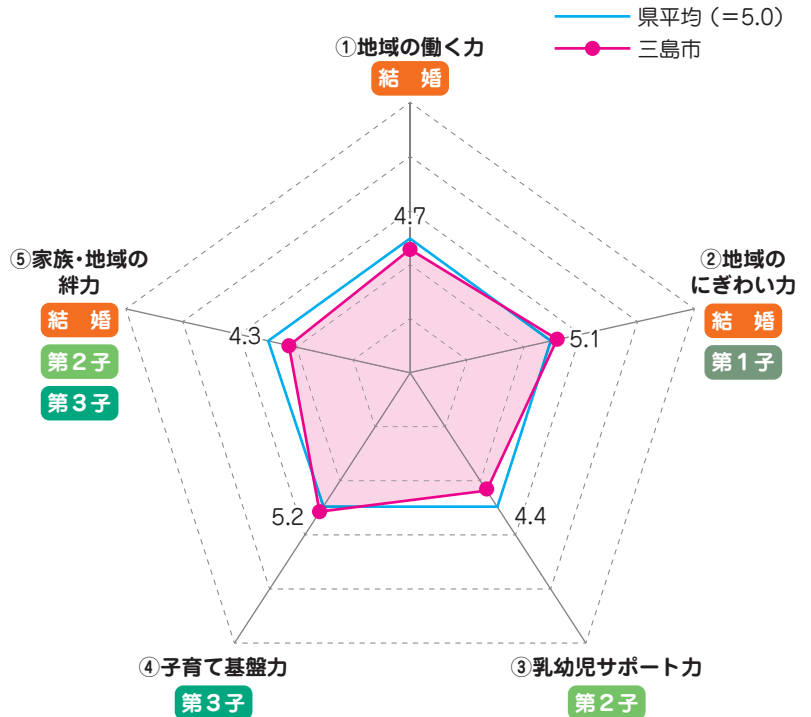


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を上回ったものの、「①地域の働く力」「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回っており、②と①⑤の効果が打ち消し合い、▲0.06になったと考えられる。

第1子要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を上回っており、+0.01につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

子どもは地域の宝事業

《目的》

地域と子育て家庭との結びつきを強め、より良い人間関係を育むことにより、地域に誕生した子どもの成長を地域の全員で見守る気運を醸成し、安心して子育てができる地域社会を構築する。

《概要》

本事業は平成 23 年度から実施しているものであり、自治会・町内会が行う「子どもの誕生をお祝いする会」や「子育て支援活動」に係る経費に対して補助金を交付している。事業の開始から 10 年が経過し、市内の 8 割以上の自治会・町内会において実施していただく事業にまで成長している。お祝い会の対象者は新たに生まれた子どもや地域に転入してきた子どものうち就学前の子どもと定めており、地域で暮らしている子ども達との交流の場を提供するために地域の住民がそれぞれに実施の方法について工夫を凝らしたお祝い会等の活動を企画して実施している。



子どもは地域の宝事業の様子

5 わがまちのアピールポイント

● 都心まで新幹線で通勤可能な好立地

JR 三島駅から品川駅まで、新幹線ひかり号で最短 37 分の好立地。「普段はテレワーク、必要な時だけ都心に出社、週末は富士・箱根・伊豆の自然を満喫」といった生活も可能。

● 湧水と緑に囲まれたゆとりある文教都市

富士山からの湧水がせせらぎとなって緑豊かな街なかを流れ、自然を身近に感じながら、ゆとりある子育てが可能。日本大学、順天堂大学、総合研究大学院大学（遺伝学専攻）の 3 つの大学が立地する文教都市。

● きめ細かな切れ目ない子育て支援

妊娠期～子育て期まで、きめ細かな切れ目ない子育て支援で、子育て世代をしっかりとサポート。

6 首長からひとこと

子ども親も ともに育つ 笑顔あふれる 三島大家族

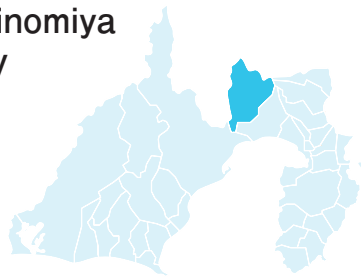


本市では、「子ども親も ともに育つ 笑顔あふれる 三島大家族」を第 2 期子ども・子育て支援事業計画の基本理念として掲げており、将来の発展を担う地域の子どもたちが健やかに育ち、明るい未来を描くことのできる三島市の実現に向けて、子どもとその親の視点に立った三島スタイルの子育て支援施策を積極的に推進してまいります。

三島市長 豊岡 武士

富士宮市

Fujinomiya City

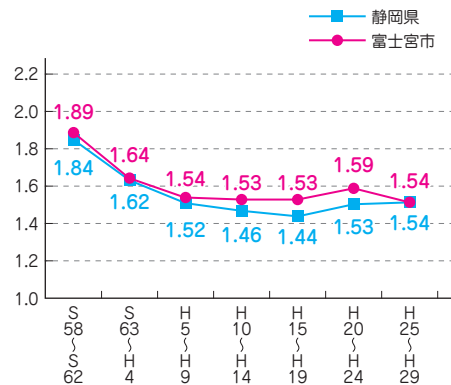


合計特殊出生率
【H25～H29】

1.54

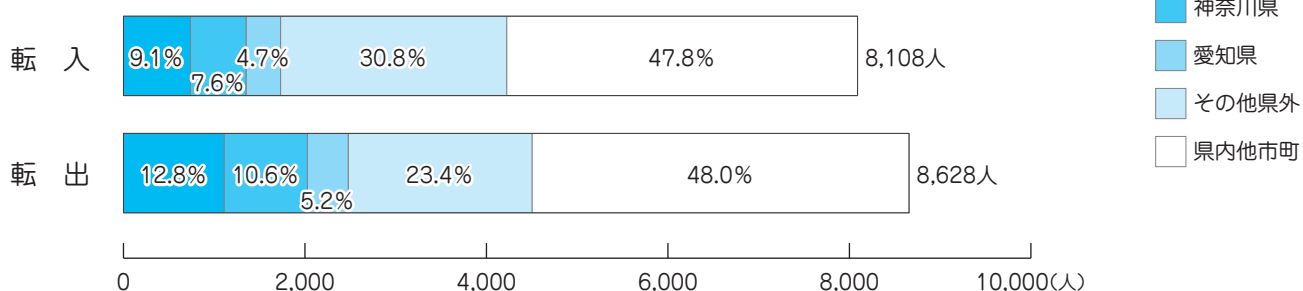
- 人口 132,299人
- 世帯数 56,942世帯
- 総面積 389.08km²

※令和2年1月1日現在



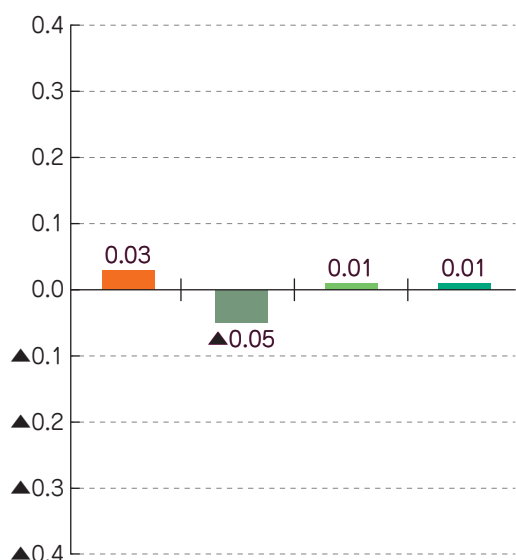
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20～34歳 【期間】H25～H29年

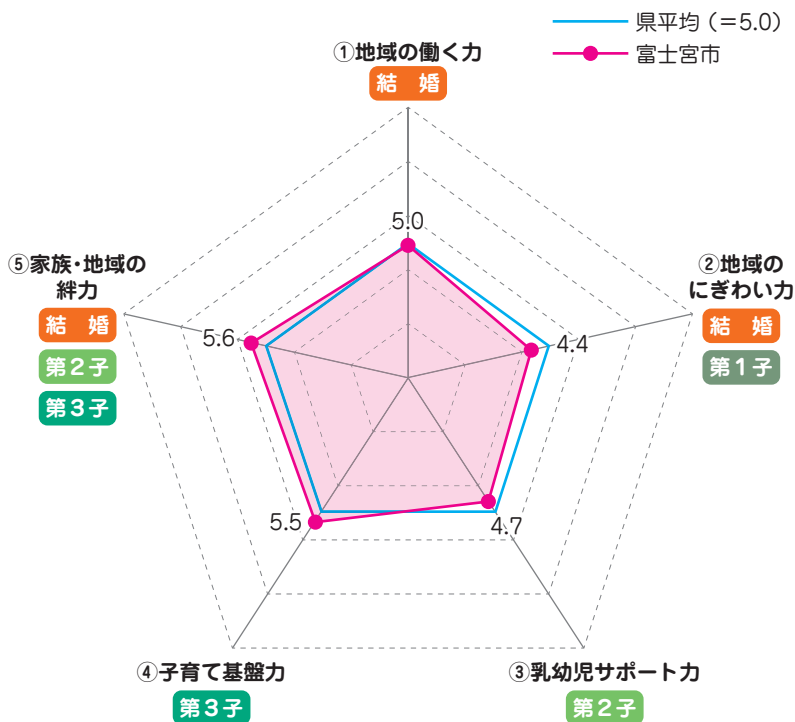


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を下回ったものの、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.03につながったと考えられる。

第2子要因

「③乳幼児サポート力」は県平均を下回ったものの、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.01につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

ふじのみやベビーステーション事業

《目的》

「ふじのみやベビーステーション」は、コンビニエンスストアを始めとした富士宮市内の施設で「ハード（モノ）とソフト（こころ）」両方から子育てをサポートしていくことで、子育ての負担を軽くし笑顔で子育てできる環境づくりや、社会全体で子育てを行う地域づくりを目指す。

《概要》

令和2年度現在、市内コンビニエンスストアの9割近くをふじのみやベビーステーションとして登録しており、子育て中の母親だけではなく、幅広い世代へ周知を行うために、抽選会などイベントを実施する。

子育て世代の外出で多くなりがちな荷物の負担を減らせるよう、身近なコンビニエンスストアでミルクのお湯の提供・紙おむつの販売を行い、店舗の方に講習会を受講してもらうことで、社会全体で子育てする意識づけや環境づくりを行う。



ふじのみやベビーステーション事業の様子

5 わがまちのアピールポイント

● 子育て支援団体の活動により高まる地域の妊娠・出産・子育て力

富士宮市を中心に活動している子育て支援団体「母力向上委員会」が、子育てに関するアドバイスや相談、講座等を開催。また、子育てのみならず、妊娠・出産に対するケアにも力を入れ、地域の妊娠・出産・子育て力を向上。

● 不妊・不育症治療費助成

助成限度額が80万円と県下1位を誇る。不妊治療費助成だけでなく、不育症治療費助成も併せて実施。

● 子育て支援拠点創設事業（子育てサロン）

事業の主旨に理解のある地域住民で組織するグループ、行政区などで子育て家庭の親子が気軽に集う場を地域に設け、子育ての負担感、不安感及び孤立感を解消するとともに、地域の子育て支援機能の充実と地域福祉の増進を図る。（市補助事業、実施主体：富士宮市社会福祉協議会）

6 首長からひとこと

子どもと親の笑顔があふれるまち富士宮



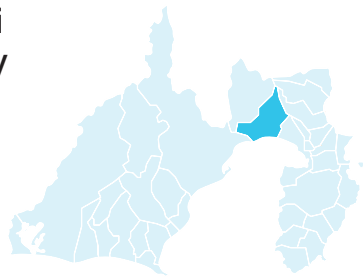
富士宮市は、世界遺産富士山に見守られ「住んでよし 訪れてよし」「生んでよし 育ててよし」「学んでよし 働いてよし」、そして「出会ってよし 結ばれてよし」のまちづくりに取り組んでいます。

全ての子どもが笑顔で成長し、全ての家庭で育てる喜びを感じながら、安心して子育てができる「子どもと親の笑顔があふれるまち」の実現を目指して頑張ります。

富士宮市長 須藤 秀忠

富士市

Fuji City

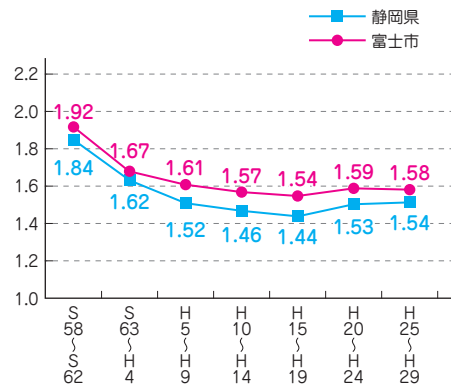


合計特殊出生率 [H25~H29]

1.58

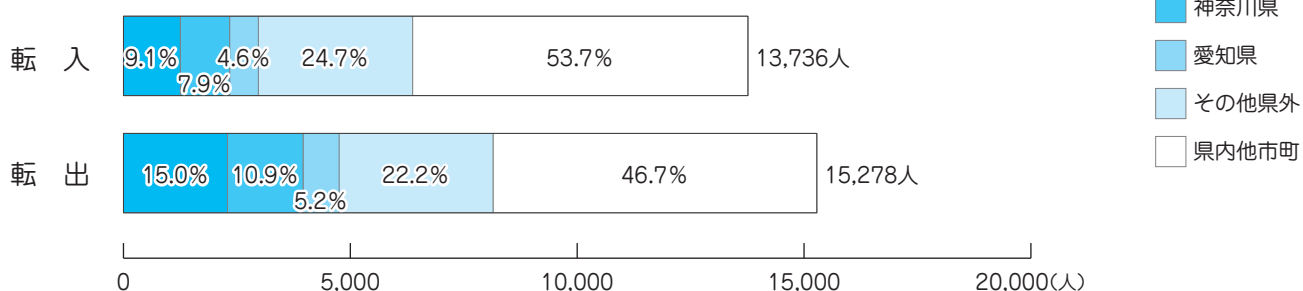
- 人口 253,354人
- 世帯数 105,109世帯
- 総面積 244.95km²

※令和2年1月1日現在



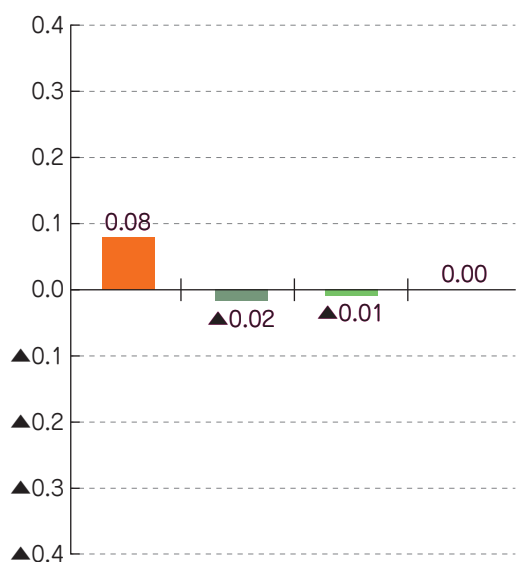
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

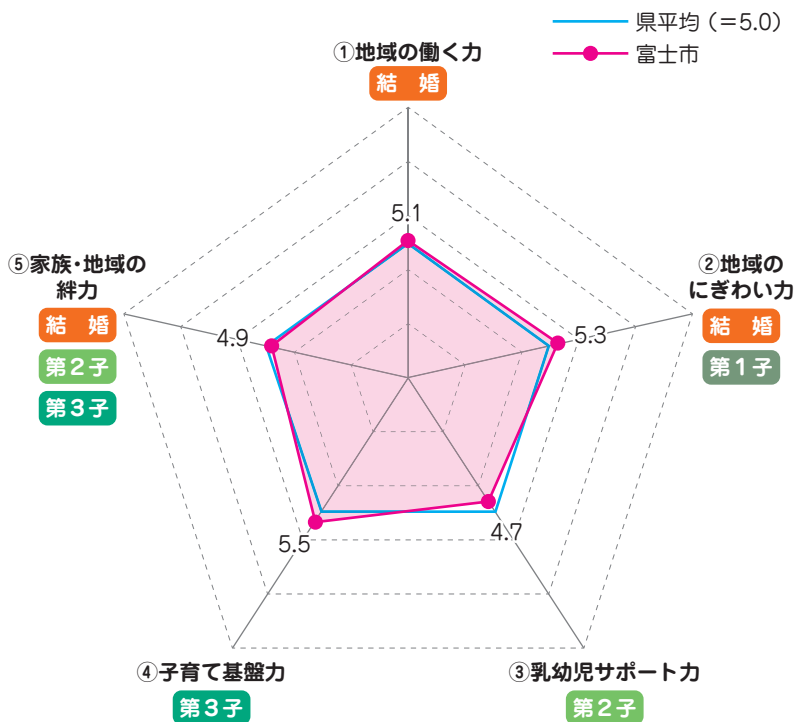


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 (Marriage Factor) | 出生力要因 (Fertility Factor)
 第1子 (1st Child) | 第2子 (2nd Child) | 第3子以上 (3rd Child and above)



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を上回っており、+0.08につながったと考えられる。

第3子以上要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回ったものの、「④子育て基盤力」は県平均を上回っており、⑤と④の効果が打ち消し合い、0.00となったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

はぐくむFUJI少子化対策プラン

《目的》

結婚、妊娠・出産、子育てに希望を持つことができる環境づくりに積極的に取り組み、多くの市民が家庭を持つことや子どもを生ま育てることの喜びや楽しさを実感できる社会を創造するため、はぐくむFUJI少子化対策プランを策定しました！

《概要》

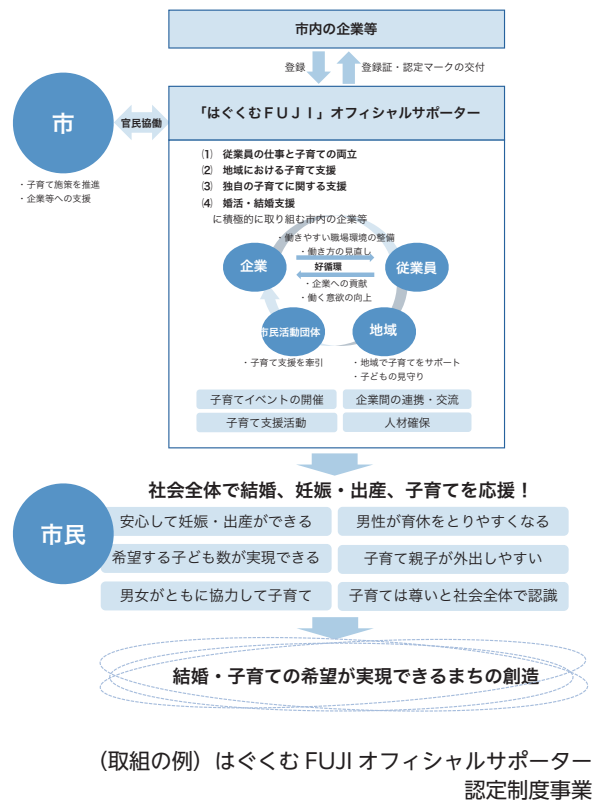
本プランでは、次の4つを施策の柱とします。

- 結婚、妊娠・出産、子育ての希望が実現できる環境づくり
- 安心して子どもを生ま育てることができる環境づくり
- 仕事と子育てを両立できる環境づくり
- 結婚・出産・子育てに関する情報発信

また、本市の少子化の状況を踏まえ、

- I 子どもを授かることを願う人への多様な支援
- II 若い世代(特に女性)のふるさと回帰、移住・定住支援
- III ひとり親世帯への充実した支援

を優先課題として重点的に取り組みます。



5 わがまちのアピールポイント

● “待機児童ゼロ”を2年連続達成

保育園の新設や企業主導型の保育施設への支援を行ったことにより、保育園を利用する子どもの数は増加しているにも関わらず、2年連続“待機児童ゼロ”を達成。

● はぐくむFUJI オフィシャルサポーター認定制度

地域、企業などと官民協働により社会全体として子育てに温かい社会づくりを推進する仕組みを構築。

● 子育て世代の移住・定住を応援する企画「富士このみスタイル」

子育て世代の移住経験者に協力していただき、移住前の情報収集に役立つ交流イベントや、移住後の子育て・暮らし・働き方のヒントが得られるセミナーを随時開催。

6 首長からひとこと

**若い世代が結婚、妊娠・出産、子育ての希望が実現でき、
すべての人がいきいきと安心して子どもを生ま育てることができるまち ふじ**

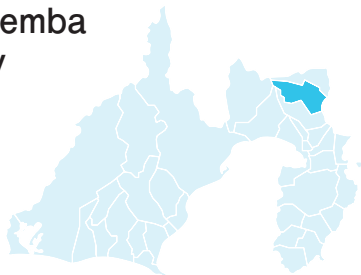


本市では、「はぐくむFUJI少子化対策プラン」に基づき、すべての人がお互いを尊重しつづいきいきと活躍し、家庭を持つことや子どもを生ま育てることの喜びや楽しさを実感できるまちの創造を目指して、社会全体で結婚、妊娠・出産、子育てに希望を持つことができる環境づくりに積極的に取り組みます。

富士市長 小長井 義正

御殿場市

Gotemba City

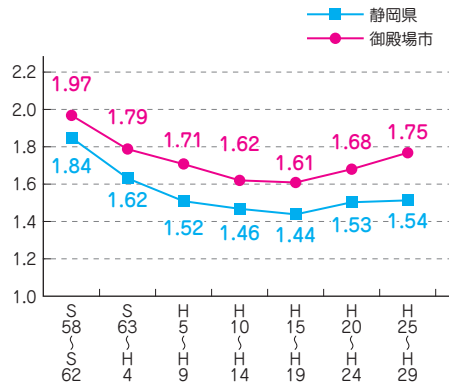


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.75

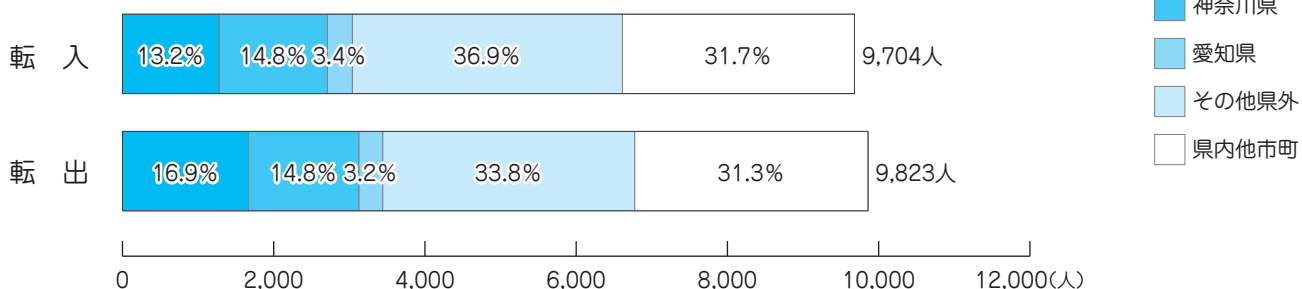
- 人口 88,252人
- 世帯数 37,555世帯
- 総面積 194.90km²

※令和2年1月1日現在



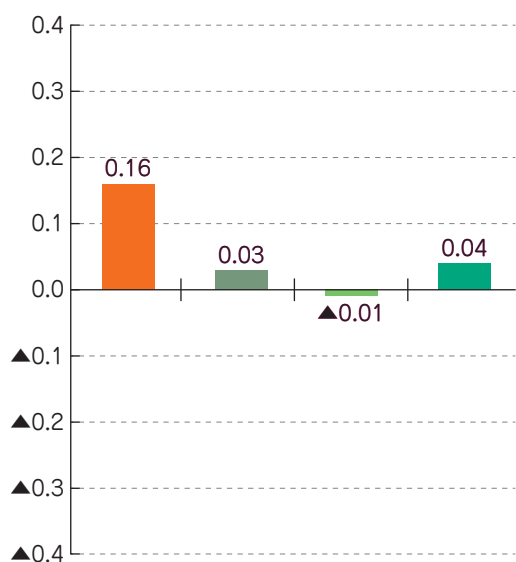
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

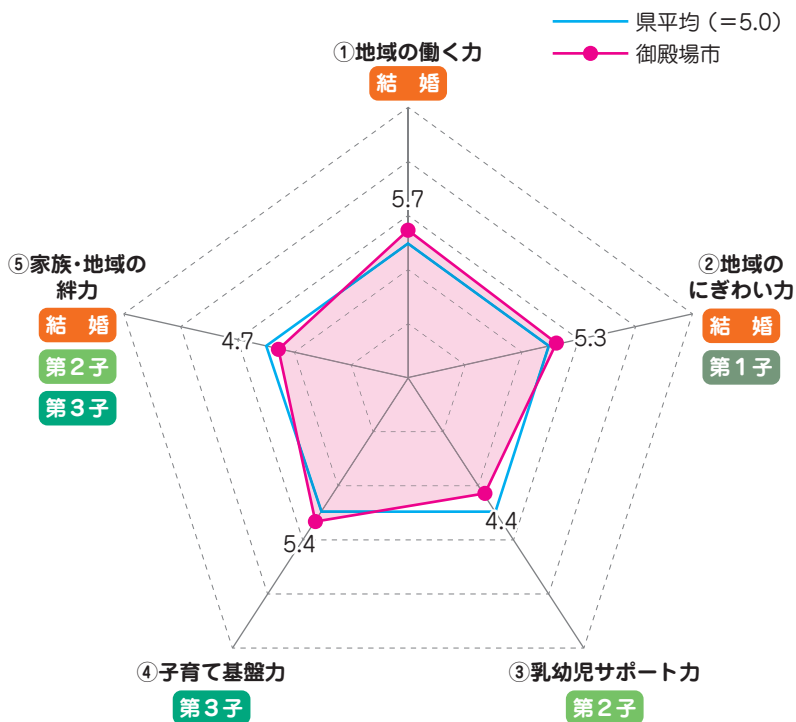


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を上回っており、+0.16につながったと考えられる。

第3子以上要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回ったものの、「④子育て基盤力」は県平均を上回っており、+0.04につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

御殿場市子ども条例及び行動計画の制定

《目的》

子どもを社会全体で育成し、支えていくための取り組みについての基本理念を定めることにより、保護者、市民、学校等それぞれが子どもの育成に主体的に関わり、全ての子どもが健やかに成長していける社会の実現を図る。

《概要》

行政をはじめ、それぞれの立場の役割により主体的に関わり、子どもを市民総がかりで育てる。

学校の役割……心の教育を基本として、発達段階を踏まえ、自ら考え解決していく「生きる力」を育む。

地域の役割……地域のつながりを生かしながら、お互いに協力して活動する。

保護者の役割……子どもに愛情を注ぎ、触れ合い、心身のよりどころになる家庭環境を作る。

事業所の役割……職場で働く保護者が仕事と生活のバランスを保つことができるようにし、子どもの育成に関する活動を積極的に行う。



御殿場市内の児童の登校風景（逆さ富士をバックに）

5 わがまちのアピールポイント

● きめ細かな母子保健事業の実施

ごてんば版ネウボラとして、子育て世代包括支援センター等で市民が気軽に相談できる窓口となり、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目の無いきめ細かな支援事業を緊密に関係部署等と連携して実施。

● 保育に関する保護者負担の軽減

保育料・副食費を年収に関係なく第3子以降を無償とすることで、保護者の金銭的負担の軽減をするとともに、保育所等の施設整備を進め、利用定員を順次拡大。

● 放課後児童クラブの充実

公設の19クラブに加えて、他の小学校区からの送迎も可能な民間の12クラブを合わせた合計31クラブにより、市全域で小学1年生から6年生までの利用が可能（R3.4.1 予定）。

6 首長からひとこと

「真の子育て支援日本一のまち」をめざして

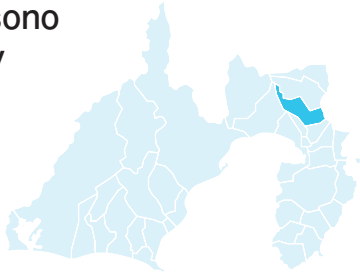


このたび、本市の合計特殊出生率は大幅に上昇しました。これはまさに、地域や社会全体で子どもを育成し支えてきたことが実を結んできたものと考えます。今後も、小中学校による学校給食費の助成、公立幼稚園の給食の本格実施、第3子以降子育て応援手当支給事業等、より一層の子育て支援策を実施していくことで、真の子育て支援日本一のまちをめざします。

御殿場市長 若林 洋平

裾野市

Susono City

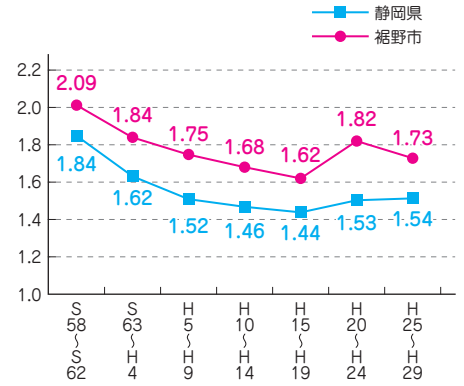


合計特殊出生率 [H25~H29]

1.73

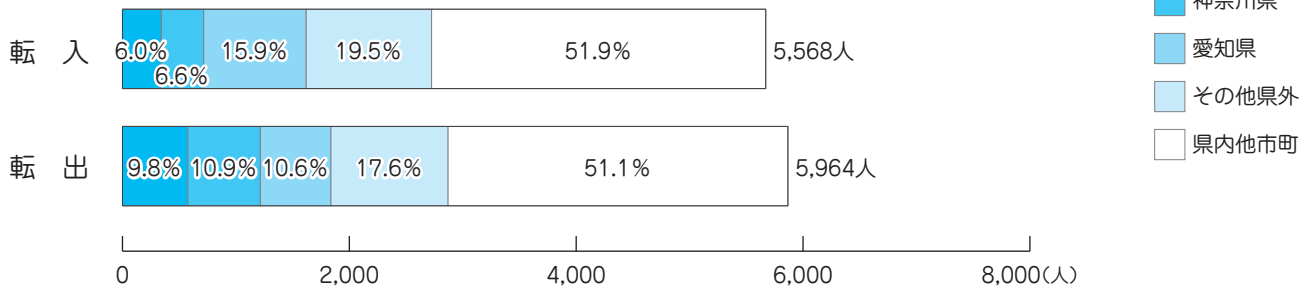
- 人口 51,552人
- 世帯数 21,669世帯
- 総面積 138.12km²

※令和2年1月1日現在



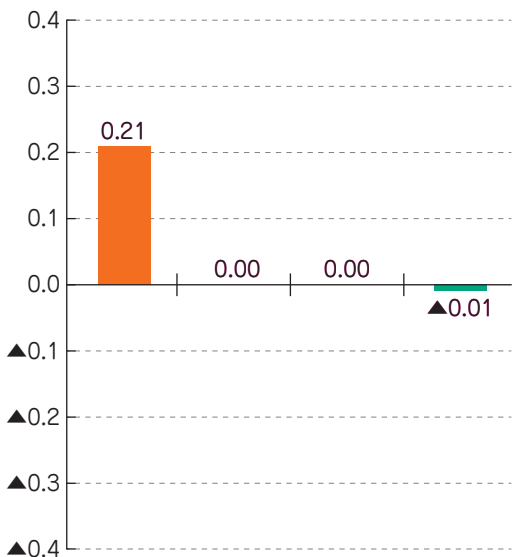
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

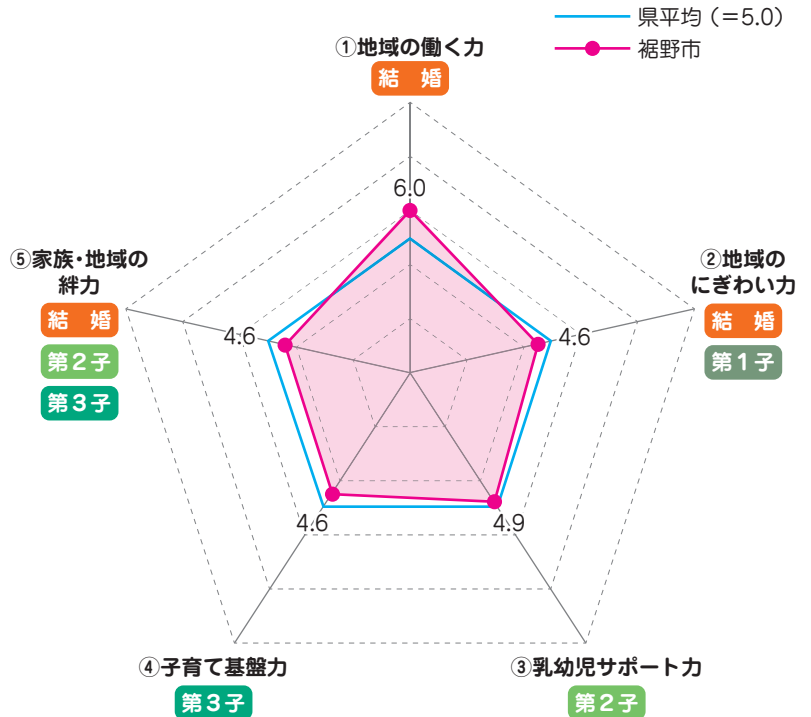


2 合計特殊出生率の要因分解

- 結婚要因
- 出生力要因
 - 第1子
 - 第2子
 - 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「①地域の働く力」は県平均を上回り、「②地域のにぎわい力」「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回ったものの、今回分析対象とした指標以外の「独自の地域特性」の影響により、+0.21になったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」「⑤家族・地域の絆力」が県平均を下回ったため、▲0.01になったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

地域におけるきめ細やかな子育て支援体制強化事業～子育て相談支援員配置事業～

《目的》

保育士・保健師の有資格の子育て相談支援員が、子育て中の父母が集まるイベントや相談事業へ出向き、遊びや雑談の中で気軽に子育て相談を行い、子育て中の孤立感や育児不安の解消につなげる。

《概要》

子育てイベントや母子保健事業と連携した「遊びと交流の場」に相談員が出向き、わらべ歌や手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居など、親子と一緒に遊ぶ中で育児の不安や悩みなどに対応する。外遊びを実施することで、屋外ならではの風や光を五感で感じる体験を通じて交流する。

地域社会できめ細やかな支援体制ができることで、地域全体のコミュニティを高め、子育て支援の機運の醸成を図る。



子育て相談支援員配置事業の様子

5 わがまちのアピールポイント

● 子育てモバイルサービス

電子母子手帳機能、その他予防接種のスケジュール管理、医療機関や各種教室の予約、幼稚園・保育園の情報など、子育て世帯へのきめ細やかなサービスの情報を提供。

● 子育てライブラリー～本を核として子育てする取組事業

ファーストブック、セカンドブック事業を展開し、年齢や成長に合った絵本や絵本ブックリストを提供。幼児期に絵本を通じて子どもの「こころ」と「ことば」を育み、健やかな成長を促進。

● 幼児を対象とした外国文化ふれあい事業

市内の幼稚園、保育園へ外国人講師を派遣し、幼少期から英語を学ぶ機会を創出。歌や遊びの中で楽しく英語に親しむ時間を提供。

● 大手企業の研究部門や工場の集積による安定した雇用の確保

6 首長からひとこと

出会いから子育てまで切れ目ない支援で共に育む街づくり ～みんなで子育てするまち すその～

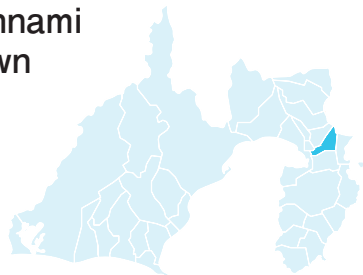


本市では令和2年3月に策定した第2期子ども・子育て支援事業計画に基づき、安心して子どもを産み育てられる切れ目ない支援を推進していきます。多様化するライフスタイル、刻々と変化する社会変化に柔軟に対応して地域全体で子育てを大切にし、令和の時代にふさわしい「田園」と「未来都市」が令しく調和するまちの実現を目指します。

裾野市長 高村 謙二

函南町

Kannami
Town

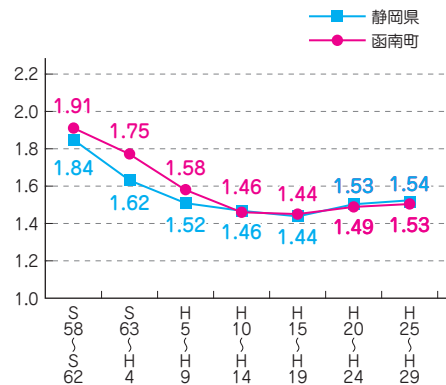


合計特殊出生率 【H25～H29】

1.53

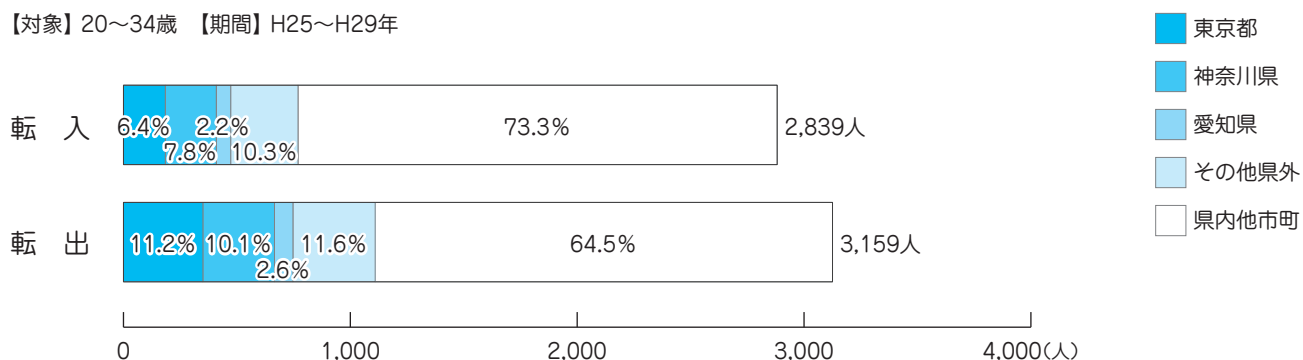
- 人口 37,739人
- 世帯数 16,387世帯
- 総面積 65.16km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20～34歳 【期間】H25～H29年

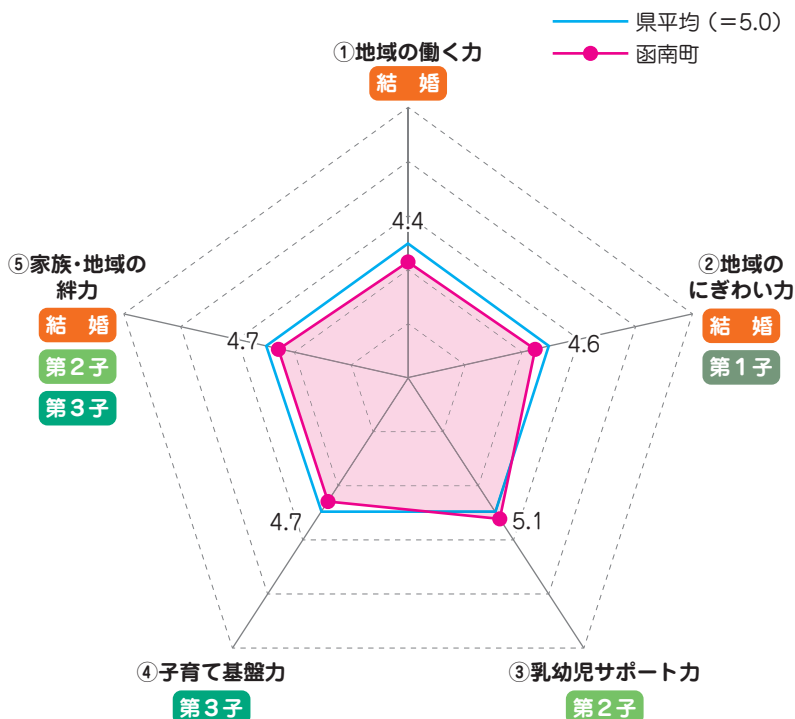


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」「⑤家族・地域の絆力」いずれも県平均を下回ったものの、今回分析対象とした指標以外の「独自の地域特性」の影響により、0.00になったと考えられる。

第2子要因

「③乳幼児サポート力」は県平均を上回ったものの、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回っており、③と⑤の効果が打ち消し合い、▲0.04になったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

ホームスタート事業

《目的》

保護者の子育ての意欲の向上及び地域での安定した家庭生活の保障を図り、もって適切な子育て環境の整備及び家庭の福祉の増進に寄与する。

《概要》

研修を受けた育児経験者（ホームビジター）が、週1回、2時間程度（計4回）無償で訪問し、慣れない育児で孤立しがちな母親が、子育ての悩みをひとりで抱え込まないよう、「傾聴」（寄り添って話を聞く）・「協働」（家事や育児を一緒に行う）をキーワードに、保護者の心の安定と子育てに寄り添いながら支援を行う。

●対象

函南町在住の6歳以下の未就学児がいる家庭

●体制

オーガナイザー（訪問支援するお宅に「ホームビジター」をコーディネートする調整役）とホームビジターで構成



イベントでの傾聴の様子

5 わがまちのアピールポイント

●子育てふれあい・地域交流センター

子育て世代を対象としたイベントを実施するほか、保健師、認定心理士、保育士の専門的知識を有する職員を会計年度任用職員として子育て支援コンシェルジュと称し配置。多くの親子が笑顔になれる子育て環境を提供。

●かなみ子育て出産応援金

住民登録後1年以上経過した人で、実子3人以上の子どもを出産した人に支給。
支給額は3人目以上1人につき5万円。

●子育て世代包括支援センター（相談室「Hello あかちゃん おひさまルーム

妊娠期から子育て中のお母さんと、その家族を切れ目なくサポートするための窓口を設置。

6 首長からひとこと

～安心して子どもを産み育てることのできる魅力あるまち「函南」～



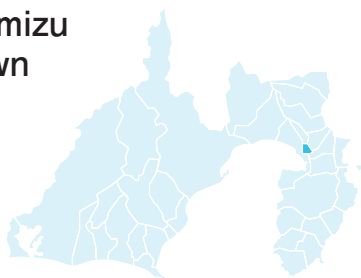
子ども・子育て世帯を取り巻く環境は大きく変化しています。

函南町は、令和2年度を初年度とする「第2期函南町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、幼児教育・保育の体制整備にとどまらず、子どもたちの健全な育成のため、様々な視点から切れ目ない支援を実施し、町全体で子ども達を見守り、成長を支えています。

函南町長 仁科 喜世志

清水町

Shimizu
Town

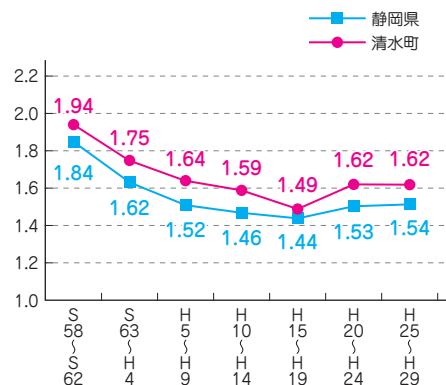


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.62

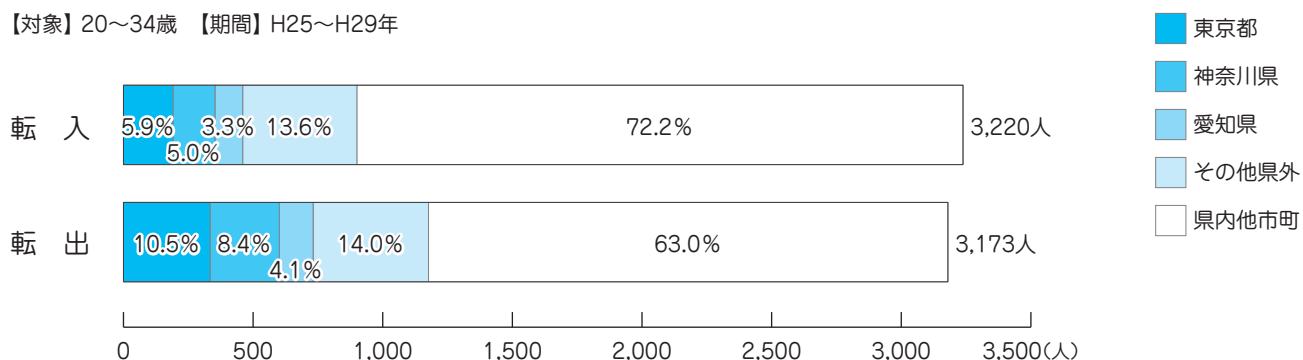
- 人口 32,287人
- 世帯数 14,048世帯
- 総面積 8.81km²

※令和2年1月1日現在



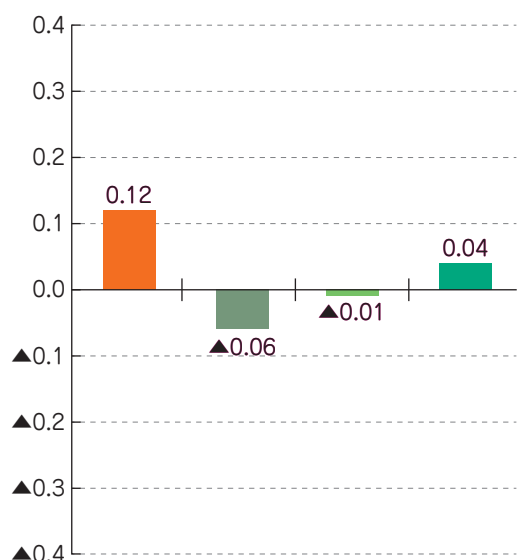
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

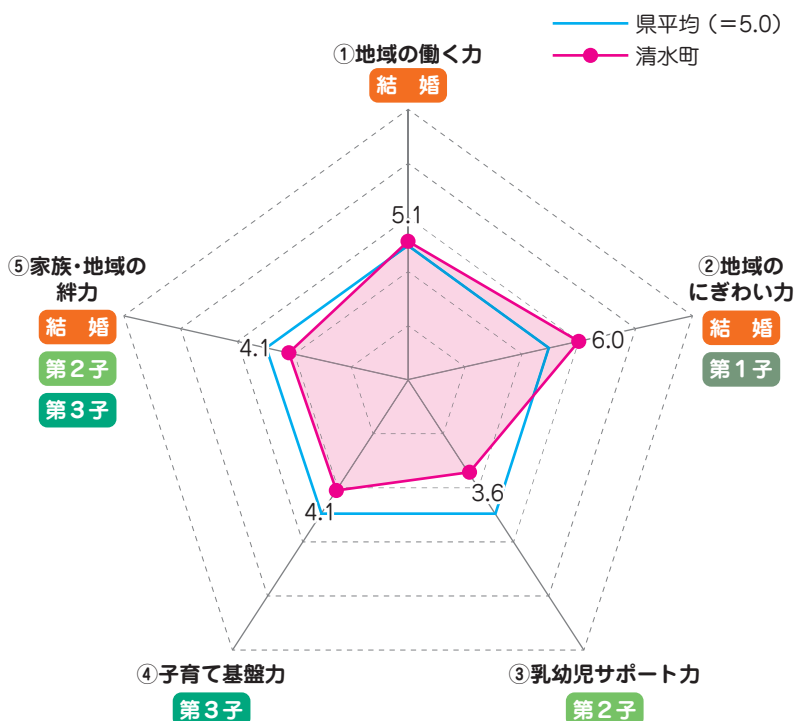


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を上回っており、+0.12につながったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」「⑤家族・地域の絆力」はいずれも県平均を下回ったものの、今回分析対象とした指標以外の「独自の地域特性」の影響により、+0.04になったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

地域親子ふれあいランド事業

《目的》

地域の親子が遊びの場を通じ、育児に関する情報交換や相互の交流を深める。

《概要》

子育て支援アドバイザー（保育士・幼稚園教諭など）が各地区の公民館等に出向き、親子の遊び場や親同士の相互交流の場を提供する。

- 名称：地域親子ふれあいランド「カンガルー」
- 対象：0歳児から就学前の児童及びその保護者、出産を控えた妊婦さん
- 事業開始：平成15年度
- 実績（参加親子数）
 - ・平成30年度：236組
 - ・令和元年度：215組



地域親子ふれあいランド事業の様子

5 わがまちのアピールポイント

● 図書館と保健センターが一体となった複合施設（愛称：まほろば館）

町立図書館と保健センターを合築した複合施設（まほろば館）を令和2年7月に開館。図書館内には、町出身の絵本作家宮西達也先生の特設コーナーを設け、保健センター内には、子育て世代包括支援センターを併設するとともに妊娠期からお年寄りまでの健康相談等に保健師らが応じる複数の相談室や授乳室を整備。子どもからお年寄りまで交流する町民の憩いの場であり、「笑街健幸」のまち、清水町の拠点。

● 親子が集いやすい商業施設内の子育て総合支援センター

商業施設「サントムーン柿田川」内に子育て支援のひろばを設置し、子育て親子の相互交流や子育てについての相談・助言・情報提供を実施。

● こども医療費助成制度

6 首長からひとこと

未来輝く湧水（ゆうすい）の子をみんなであたたかく育てよう

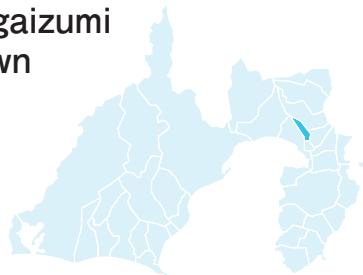


子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化する中、安心して子どもを産み育てることができる環境をつくるため、清水町では「創ろう未来！新しい清水町！」をスローガンに、様々な支援に取り組んでおります。清水町で子育てしたいと思える仕組みや制度を整え、豊かな未来づくりを担う人たちが移り住む地域づくりを進めてまいります。

清水町長 関 義弘

長泉町

Nagaizumi
Town

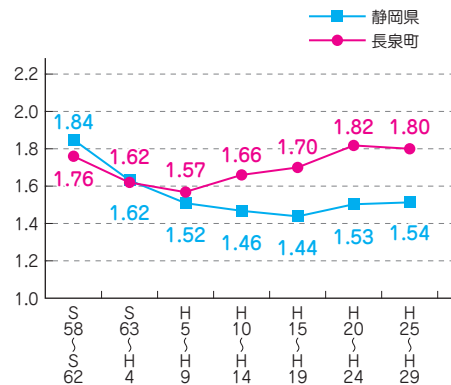


合計特殊出生率
【H25～H29】

1.80

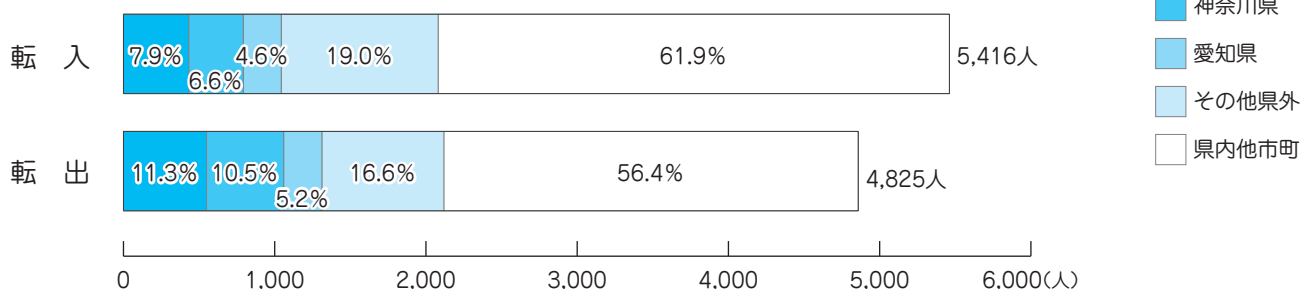
- 人口 43,601人
- 世帯数 18,308世帯
- 総面積 26.63km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

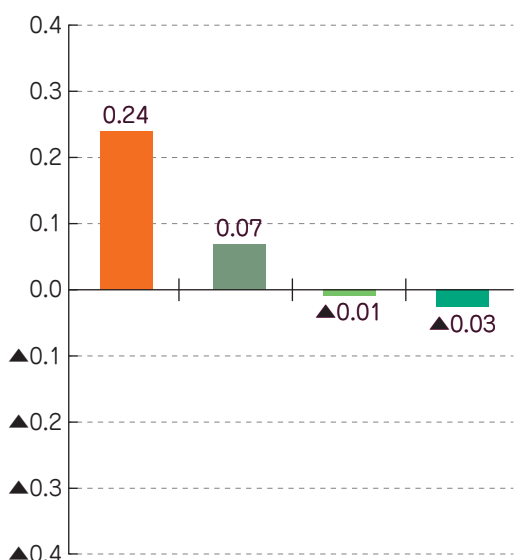
【対象】20～34歳 【期間】H25～H29年



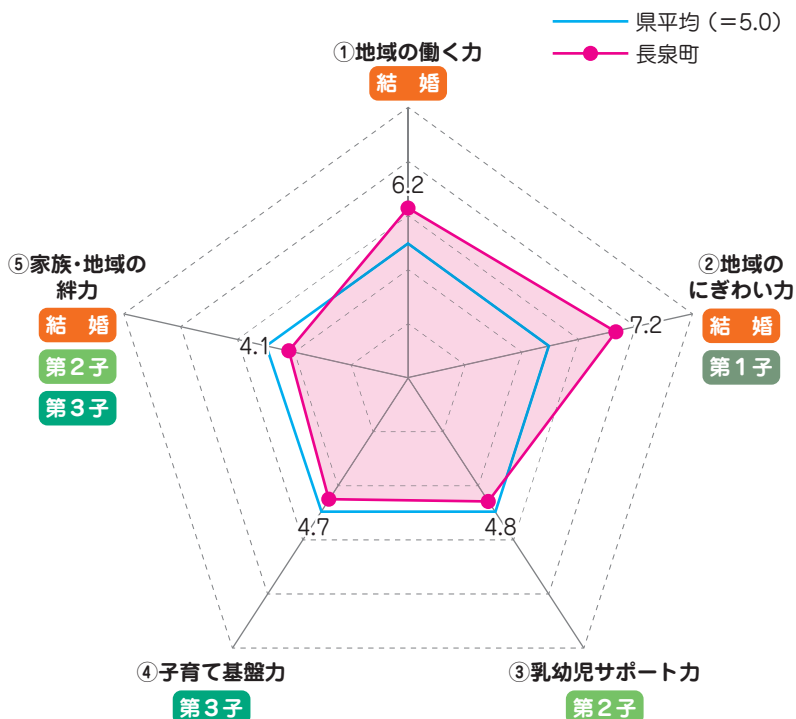
2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 (Marriage Factor) | 出生力要因 (Fertility Factor)

第1子 (1st Child) | 第2子 (2nd Child) | 第3子以上 (3rd Child and above)



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を上回っており、+0.24につながったと考えられる。

第1子要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を大きく上回っており、+0.07につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

長泉町定住のための新幹線通学支援補助金

《目的》

JR 三島駅から新幹線（原則鉄道営業キロ 100km 以上）を利用して通学する学生に、新幹線通学定期券購入費用の一部を補助し、長泉町で育った若者が大学進学等をきっかけに首都圏等に転出することなく、町の未来を担う人材として卒業後も定住してもらう。

《概要》

新幹線通学者に対し、1 か月 2 万円（※新横浜駅の方は 1 か月 1 万 7 千円）の補助金を交付する。また、学生には町の親しみや理解を深めるとともに学生視点からまちづくりに対する提案をもらうため、町が主催する事業への参画を補助要件としている。

- 実績（前期分交付決定者数）
- 平成 30 年度：88 名
- 令和元年度：111 名



町の事業に参加する学生

5 わがまちのアピールポイント

●子育て支援センターと児童館の機能を併せ持つ こども交流センター パルながいずみ

民間商業施設に設置され、子どもたちの遊びや体験の場、保護者の交流の場を提供。乳幼児向け一時保育事業、育児相談、子育てコンシェルジュによる子育て情報の発信等を実施しており、町内外の多くの方が利用。

●子どもを取り巻く問題の相談窓口を一本化する「子ども・子育て総合相談窓口」の開設

お子さんのこと、子育てのことについて相談したいけれど「どこに行っていいかわからない。」という声にこたえて、子ども・子育てのための総合窓口を開設。

●潜在保育士を公立保育所等に活用する「おたすけ人材バンク」制度の実施

潜在保育士に対して、復帰支援のための研修会を開催。研修等で人手が必要なおきに、あらかじめ登録した保育士、幼稚園教諭の方に 1 日数時間単位でお手伝いを依頼。

6 首長からひとこと

笑顔があふれるまち ながいずみ

～子どもが輝き 子育てが楽しい 心ふれあうまちをめざして～

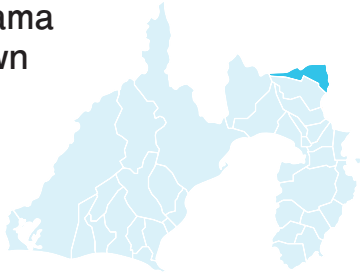


長泉町は、これまで重要施策の一つとして、「子どもを生き育てやすいまち」を掲げ、子育て支援策の充実に継続的に力を入れてまいりました。今後、少子化が一層進むと予想される中、町の活力や発展を支えていくためにも、結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない子育て支援の充実、質の高い保育・幼児教育の提供を図り、これからの長泉町を支える子どもたちの成長を地域とともに支え、未来に夢と希望の持てるまちを目指します。

長泉町長 池田 修

小山町

Oyama Town

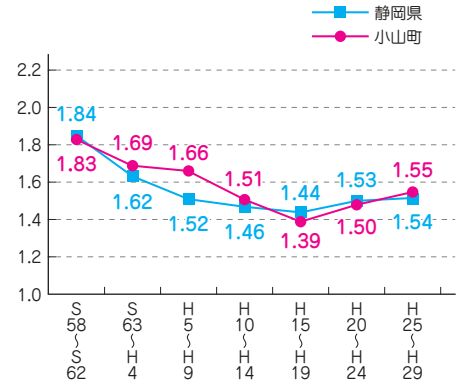


合計特殊出生率 【H25～H29】

1.55

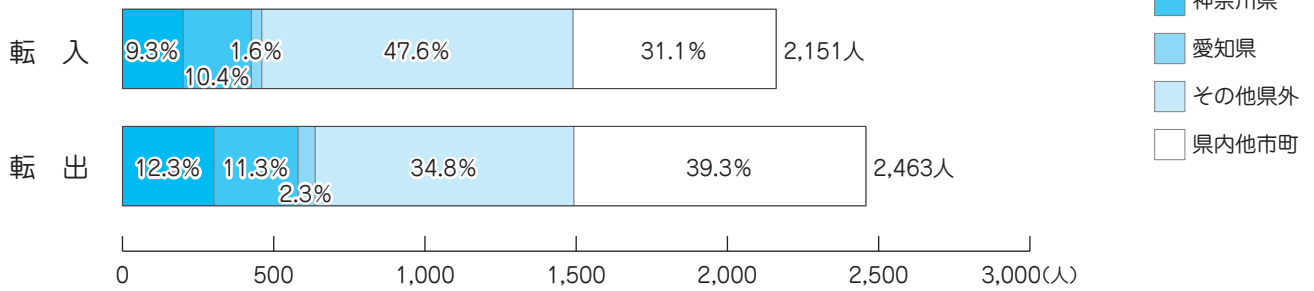
- 人口 18,306人
- 世帯数 7,510世帯
- 総面積 135.74km²

※令和2年1月1日現在



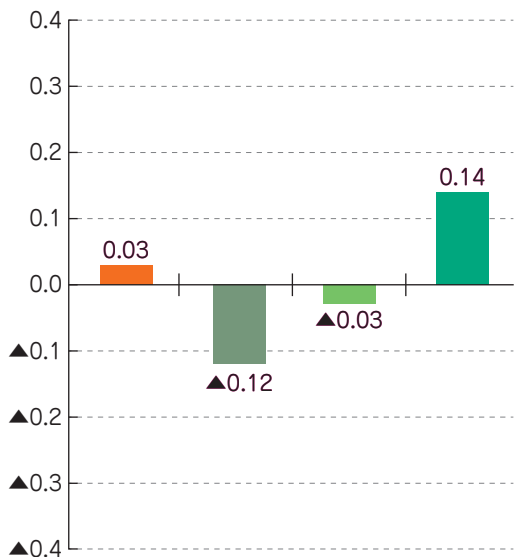
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20～34歳 【期間】H25～H29年

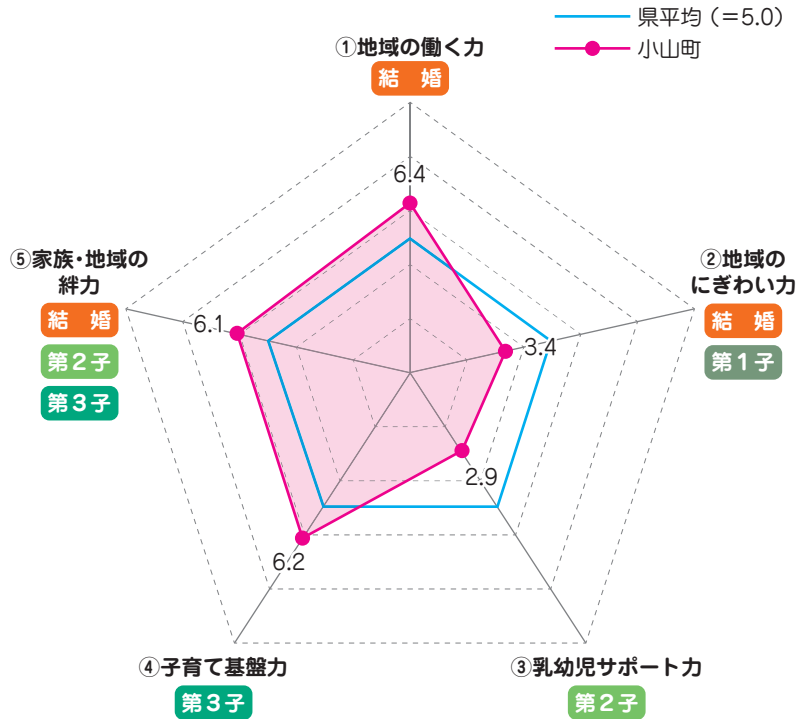


2 合計特殊出生率の要因分解

- 結婚要因
- 出生力要因
 - 第1子
 - 第2子
 - 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を下回ったものの、「①地域の働く力」「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.03につながったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」「⑤家族・地域の絆力」はいずれも県平均を上回っており、+0.14につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

地域優良賃貸住宅の整備

《目的》

子育て世代を主軸とした中堅所得者向け地域優良賃貸住宅を利便性の高い落合地区に供給することにより、快適な住まい環境を創出し、小山町の定住人口の増加や周辺地区の活性化を図る。

《概要》

こども園・小中学校・スーパー等が徒歩圏内の立地に、安全・安心に子育てできる住宅をコンセプトとした地域優良賃貸住宅を整備した。

- 名称 グランファミリア落合
- 家賃 55,000～60,000円/月
- 入居条件 18歳未満の子がいる世帯、新婚世帯（予定者含む）
- 間取り 2LDK（65.5㎡）～3LDK（72.65㎡）
- 住宅の特徴 住宅の全てが段差のないフルフラットフロアであり、多目的に利用できるコミュニティルームを併設している。



グランファミリア落合（外観）



5 わがまちのアピールポイント

●充実した子育て環境

18歳未満の医療費無償（歯科医含む）、中学校まで給食費無償、全園こども園化、小・中学校全生徒分のタブレット端末配備など、次世代を担う子どもたちの健やかな成長をサポート。

●賑わい・雇用機会の創出

ふじのくにフロンティア推進区域における企業・複合観光施設（ふじのくにアクアイグニス小山）等の誘致、新東名（仮称）小山PAスマートIC（令和5年度開通予定）等による広域交通網の整備。

●豊富な水資源

水道料金は、静岡県内1位、全国2位の安さ（平成31年4月1日時点、家事用10㎡当たり）。

6 首長からひとこと

“学んで良し、育てて良し「小山町」”の推進



「子育ての町『小山』・『子ども達は町の宝』事業構築・推進」を政策提言の一つに掲げ、町単独講師・特別支援員・低学年支援員等の配置やICTを活用した学校教育環境の整備、小山町から世界に羽ばたくグローバル人材の育成、県立小山高校のキャリア教育促進など、小山町の将来を担う子ども達の教育環境整備に力を入れております。

小山町長 池谷 晴一